

就職活動を振り返って

いよいよ12月1日から、企業の採用広報活動が解禁される本格的な就職活動がスタートする。事前の準備は、心構えはどうすればいいの。大手自動車メーカーから内定を勝ち取り、今夏の育友会支部懇談会(兵庫、埼玉)で体験を語った稲地隆志さん(法4)に後輩へのアドバイスをもらった。

稲地隆志さん(法4)

稲地さんの自動車への関心(選考途中で辞退した興味は野球少年の頃から)は、見たことのないスポーツカーを車の運転ゲームで知り、あこがれた。就職先として自動車関係の企業が浮かんだのも自然な流れ。3年次の夏には神奈川県内のメーカー系列販売店で3週間のインターンシップを体験。

客観的に書く

◆エントリーシート 納め得して志望動機を語る企業に絞った。自動車メーカーの場合、経営方針や福利厚生より、歴代開発車のコンセプトに共感できる企業にこだわった。ポイントは客観的に書くこと。各社個別の課題や方向性を調べ、それに沿って自分の考えを書いた。第一印象が明るいこと「緊張してはいるが、友人の指摘は効いた。車に興味のない人に魅力を伝えるなら「プライベート空間がつくれ、移動中も遠慮なく歓談できる」など論理を練り直し、客観性を追求。「エントリーシートが通るようになつたのは5社目から。就職課でアドバイスを受けていたら、初めから通っていたかも」

対話を心がけ

◆面接 面接は客観的に人を見るかと父親に質問し、その答えを参考にしていた。「第一印象が明るいこと」「緊張してはいるが、友人の指摘は効いた。車に興味のない人に魅力を伝えるなら「プライベート空間がつくれ、移動中も遠慮なく歓談できる」など論理を練り直し、客観性を追求。「エントリーシートが通るようになつたのは5社目から。就職課でアドバイスを受けていたら、初めから通っていたかも」

大切な助言

◆面接 面接は客観的に人を見るかと父親に質問し、その答えを参考にしていた。「第一印象が明るいこと」「緊張してはいるが、友人の指摘は効いた。車に興味のない人に魅力を伝えるなら「プライベート空間がつくれ、移動中も遠慮なく歓談できる」など論理を練り直し、客観性を追求。「エントリーシートが通るようになつたのは5社目から。就職課でアドバイスを受けていたら、初めから通っていたかも」



からSPIとテストセンターの問題集を1冊ずつ解いていった。「勉強に自信がなかったのが早めに少しずつやりまじった」。講義のない1時限目に図書館で集中、11月には2冊の問題集を2回ずつ解き終えた。

入りたい企業より、選んでくれた「縁」を

万全の準備で大手自動車メーカーの最終選考を迎えられたのは、百貨店の集団面接で同席したある就活生のおかげ。昨年の選考で同社の内定を得たというつもりだったが、その

たとい、最終選考の内定を詳しく教えてくれた。仮に同社の選考に落ちたら、その前に内定を得ていたディーラーに入社するつもりだった。その年に選んでくれた会社が自分と縁のある会社。何かの縁でつながった会社のほうが頑張っていると思えます。古風で一途な一方で、

『伝えるための心理統計: 効果量・信頼区間・検定力』

大久保街亜・岡田謙介共著 (勁草書房)



▲ 表彰を受ける大久保(左)、岡田両准教授

大久保、岡田人間科学部准教授 日本行動計量学会出版賞を受賞

大久保街亜、岡田謙介(一、効果量・信頼区間・検定力を重視、ならびにベイズ統計学に基づく新たな手法の提案をまとめたもの。)

本書は、心理統計の新しいあり方として、「科学的研究で重要なのは有意かどうかである」というこれまでの傾向に対し、出版後、多くの心理学者から注目を浴び、日本教育心理学会や日本基礎心理学会、日本認知心理学会、日本パーソナリティ心理学会、日本社会心理学会など幅広い心理学系の学会からこの書物をテーマにしたシンポジウムや講演の依頼が相次いだ。

伝えるための心理統計



大久保街亜、岡田謙介(一、効果量・信頼区間・検定力を重視、ならびにベイズ統計学に基づく新たな手法の提案をまとめたもの。)

本書は、心理統計の新しいあり方として、「科学的研究で重要なのは有意かどうかである」というこれまでの傾向に対し、出版後、多くの心理学者から注目を浴び、日本教育心理学会や日本基礎心理学会、日本認知心理学会、日本パーソナリティ心理学会、日本社会心理学会など幅広い心理学系の学会からこの書物をテーマにしたシンポジウムや講演の依頼が相次いだ。

「君が代」「世直し」…一茶の民衆意識を読む

『小林一茶 時代を詠んだ俳諧師』

青木美智男(元文学部教授)著 (岩波新書・本体700円+税)

筆者である青木美智男先生は今年7月に急逝された。本書は先生の遺作となる。専修大学に赴任以来、教える請うてきた私にとって大変残念なことであり、心からご冥福をお祈りするしだいである。

「君が代」を詠み「世直し」をうたう。これは、本音に「一茶なか」

もともと百姓一揆の研究に力を入れてこられた先生が、江戸時代を代表する俳人・小林一茶(1763~1828)の研究に着手したのは昭和50年代後半のことである。前任校での校務が忙しなくなり、古文書調査を含めたフィールドワークができなくなったことや、何気なく見た『一茶全集』に江戸の下層民の暮らしや対意識を知ることのできる句がしばしば登場することに驚いたことなどがきっかけであるという。そのため、青木先生の「一茶研究はこれまでの文学者たちによるものとは一線を画す。本書



「君が代」を詠み「世直し」をうたう。これは、本音に「一茶なか」

もともと百姓一揆の研究に力を入れてこられた先生が、江戸時代を代表する俳人・小林一茶(1763~1828)の研究に着手したのは昭和50年代後半のことである。前任校での校務が忙しなくなり、古文書調査を含めたフィールドワークができなくなったことや、何気なく見た『一茶全集』に江戸の下層民の暮らしや対意識を知ることのできる句がしばしば登場することに驚いたことなどがきっかけであるという。そのため、青木先生の「一茶研究はこれまでの文学者たちによるものとは一線を画す。本書



「近代規範」の社会史 都市・身体・国家

樋口映美・貴堂嘉之・日暮美奈子編

本書は、〈近代〉を、新たな切り口で説明しようとする研究者12人による意欲的な共同研究の成果である。多様な人々の生活する社会を秩序形成の現場と捉え、治安・社会保障・福祉・医療などをめぐって展開された試行錯誤と、その経緯の複合的メカニズムを浮き彫りにする。

本書は三部構成で、第



戦前期三井物産の投資と金融 麻島昭一著

三井文庫に残存する三井物産の元帳をもとに、1900年前後の約半世紀にわたる諸投資の内容、銀行取引の状況、支店金融と有価証券貸借の実態を解明する。

対象となるのは、元帳の残る1876(明9)年の創業時から1922(大11)年まで。記載されている諸科目の内容、推移を検証することによ

一部「都市」では三つの港町の秩序形成を描写し、第二部「身体」では有機的国家観、「科学的知」の台頭とその多様な影響を具体的に説明する。第三部「国家」では、国家介入を受けて展開する排除の多様性を描く。(彩流社・本体3800円+税)

共編著者(ひぐち・はゆみ) 文学部教授。主な担当は、アメリカの人類と政治(ひぐらし・みなこ) 文学部教授。主な担当は、近代ヨーロッパ政治史。

第五編著者(ながしま・たけし) 経済学部准教授。主な担当は、ヨーロッパの経済。

この間の元帳も10決算期分が欠けており、特に1917~20年の「第一次世界大戦後半から反動恐慌までの、いわば物産経営が激動した時期の分の欠如はまことに残念」(まえがき)より)と麻島名誉教授は述べる。

出版局・本体4600円+税

著者(あさじま・しょういち) 本学名誉教授。専攻は日本財閥史、金融史。